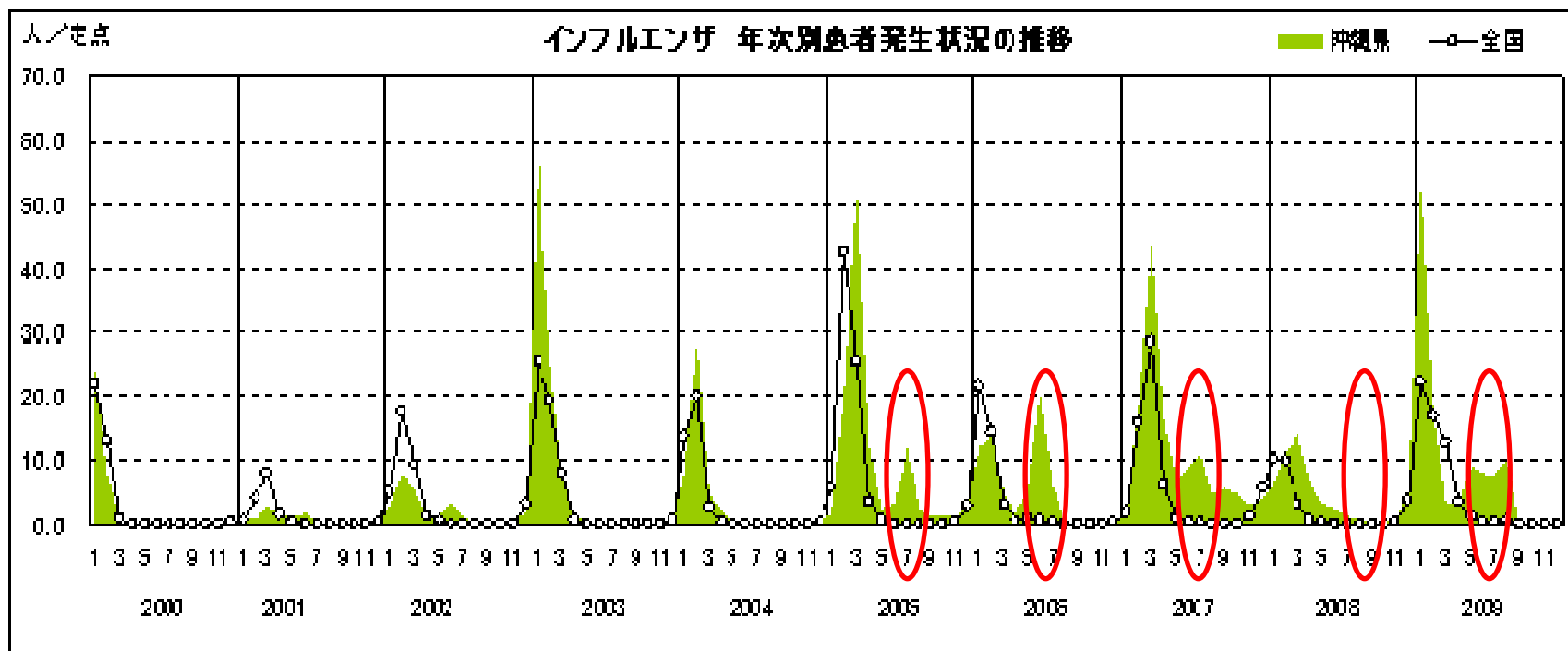


沖縄における インフルエンザ発生状況

国立感染症研究所感染症情報センター
島田 智恵、豊川 貴生、砂川 富正、谷口 清州

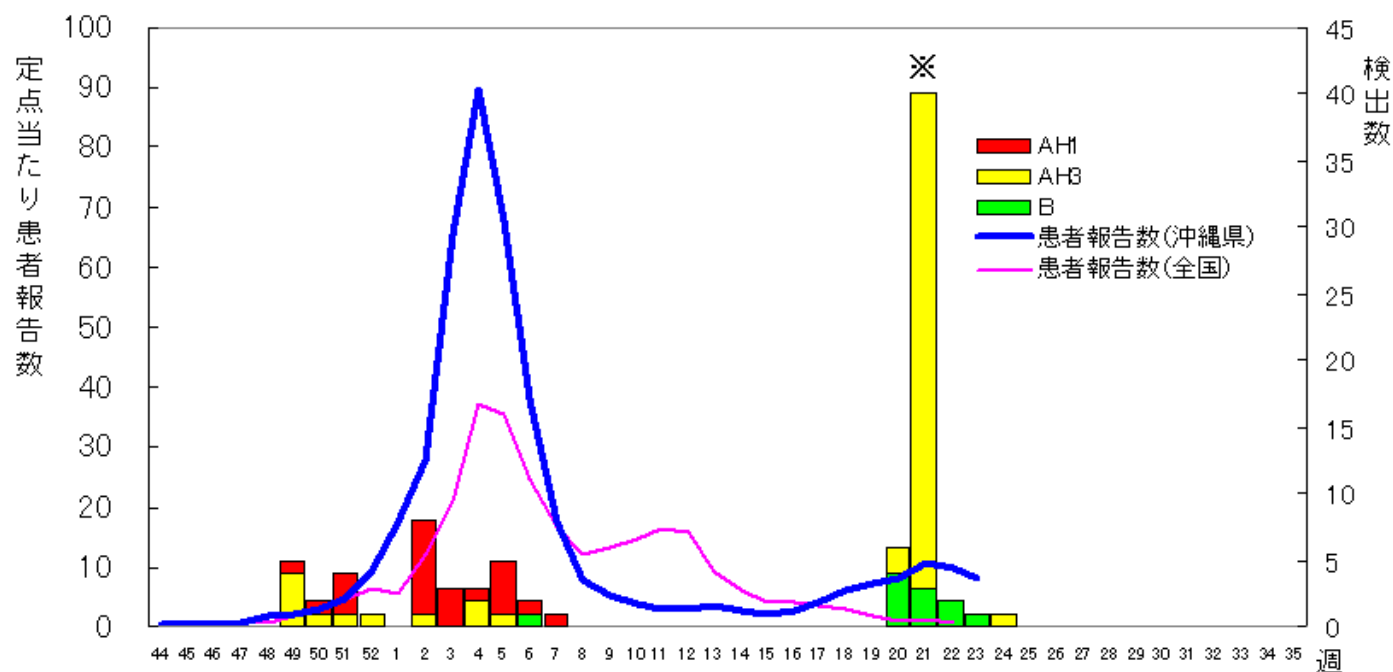
近年の沖縄県における インフルエンザ発生状況



(出典：沖縄県感染症情報センター <http://www.idsc-okinawa.jp/>)

沖縄県A型インフルエンザ 全数把握調査（第21週：5/18～5/24）

図1. インフルエンザ患者報告数とインフルエンザウイルス検出状況 2008/09（沖縄県）



※ 第21週は迅速診断キットA型陽性例について全数把握調査を実施した。

IASR

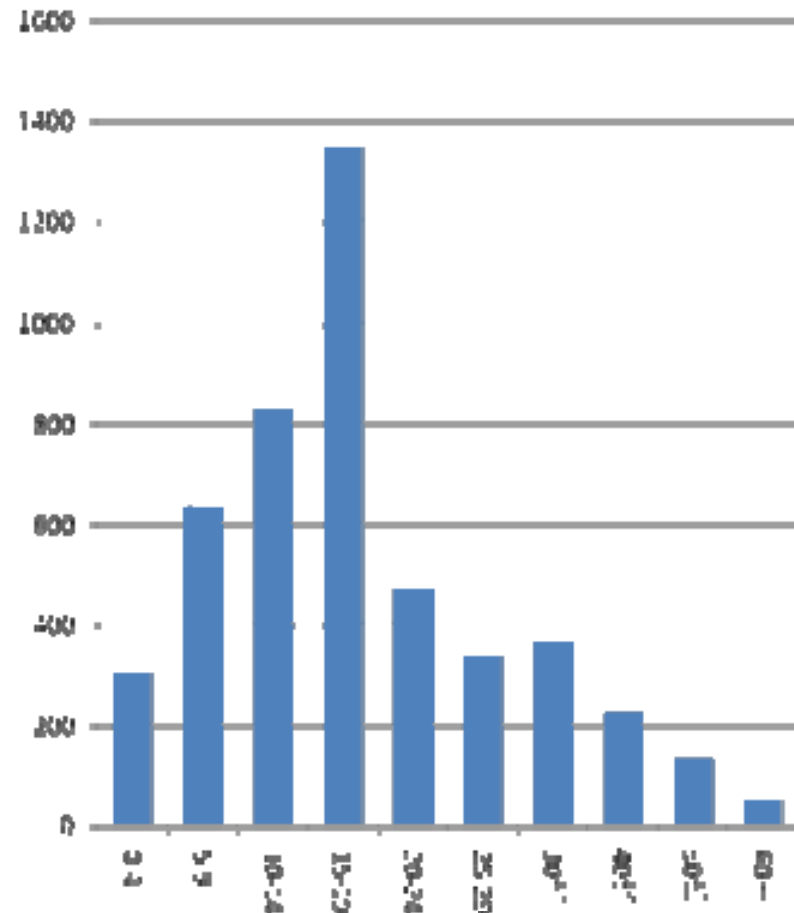
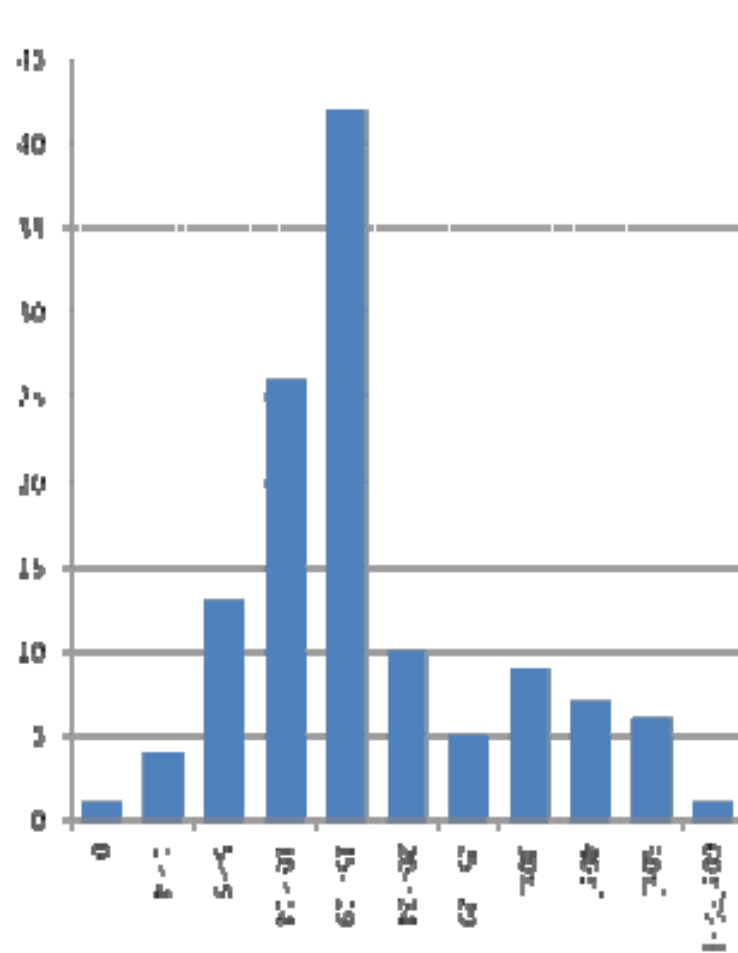
Infectious Agents Surveillance Report

(出典：IASR, Vol.30 p.183-184: 2009年7月号 <http://idsc.nih.gov/iasr/30/353/pr3534.html>)

年齢群別報告数

沖縄県(左図、n=124)と全国(右図、n=4,689)との比較

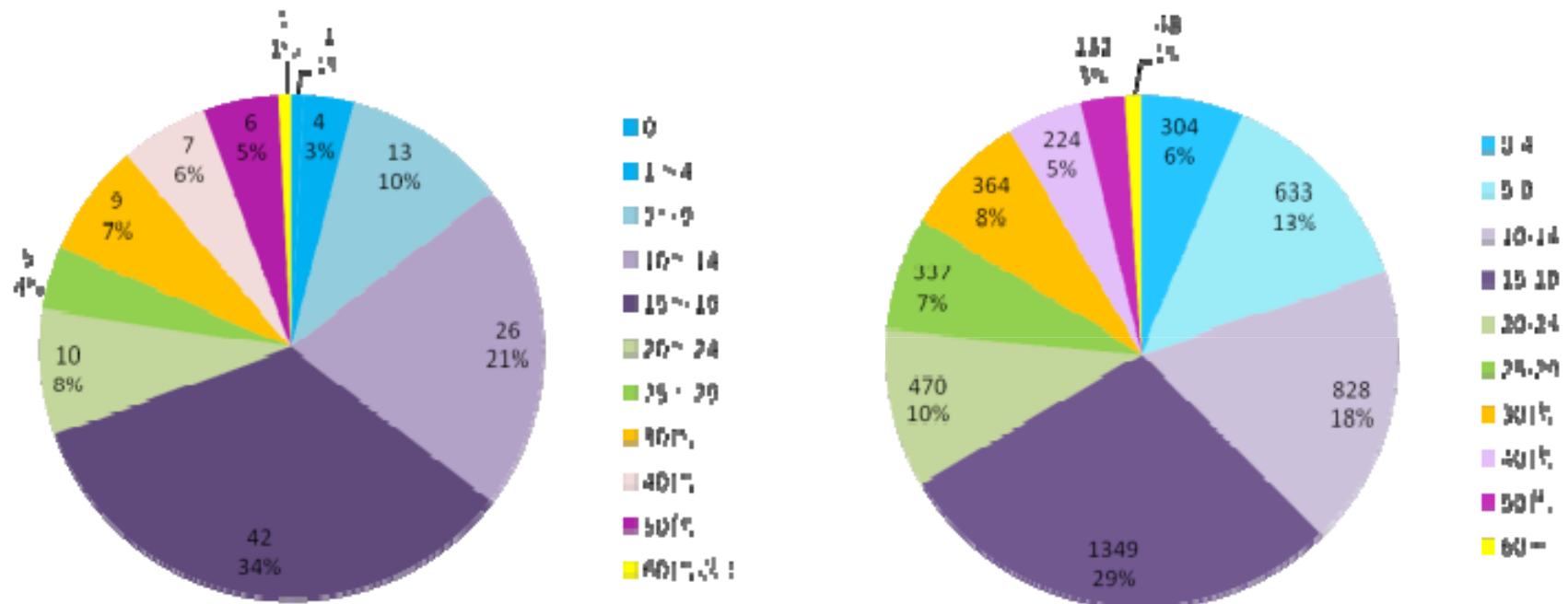
(厚労省新型インフルエンザ対策室把握分、7月24日6時現在)



年齢群別報告数

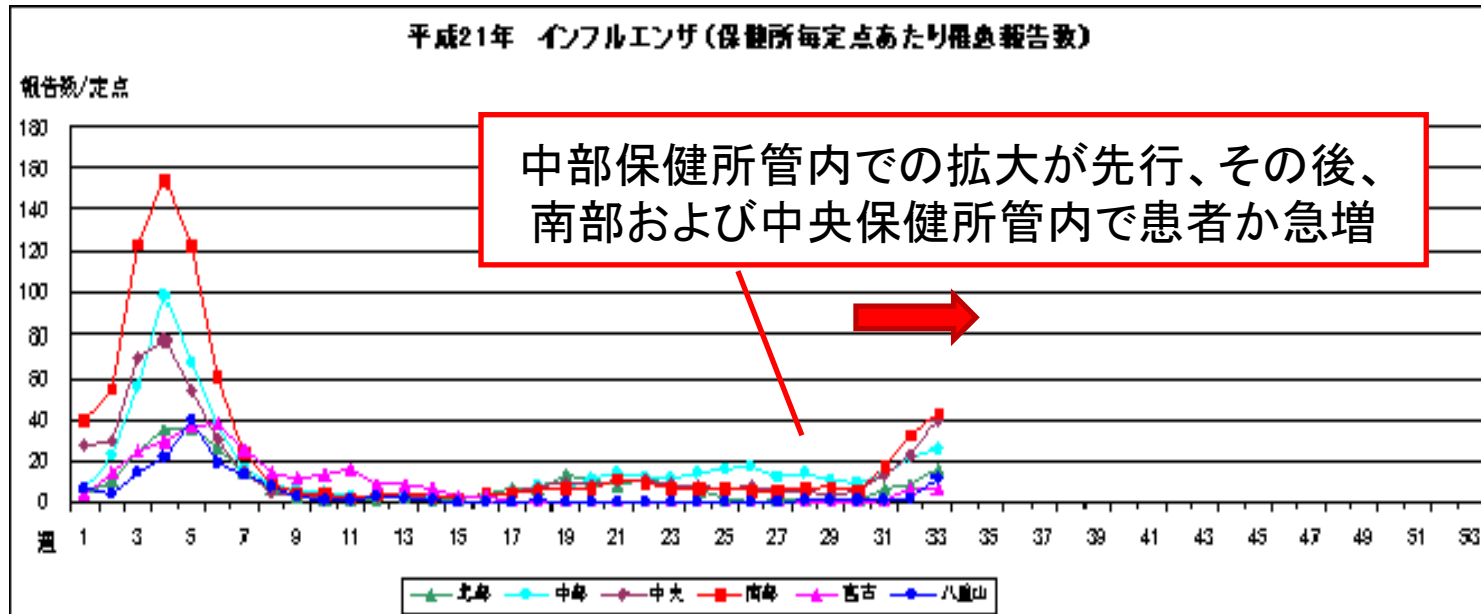
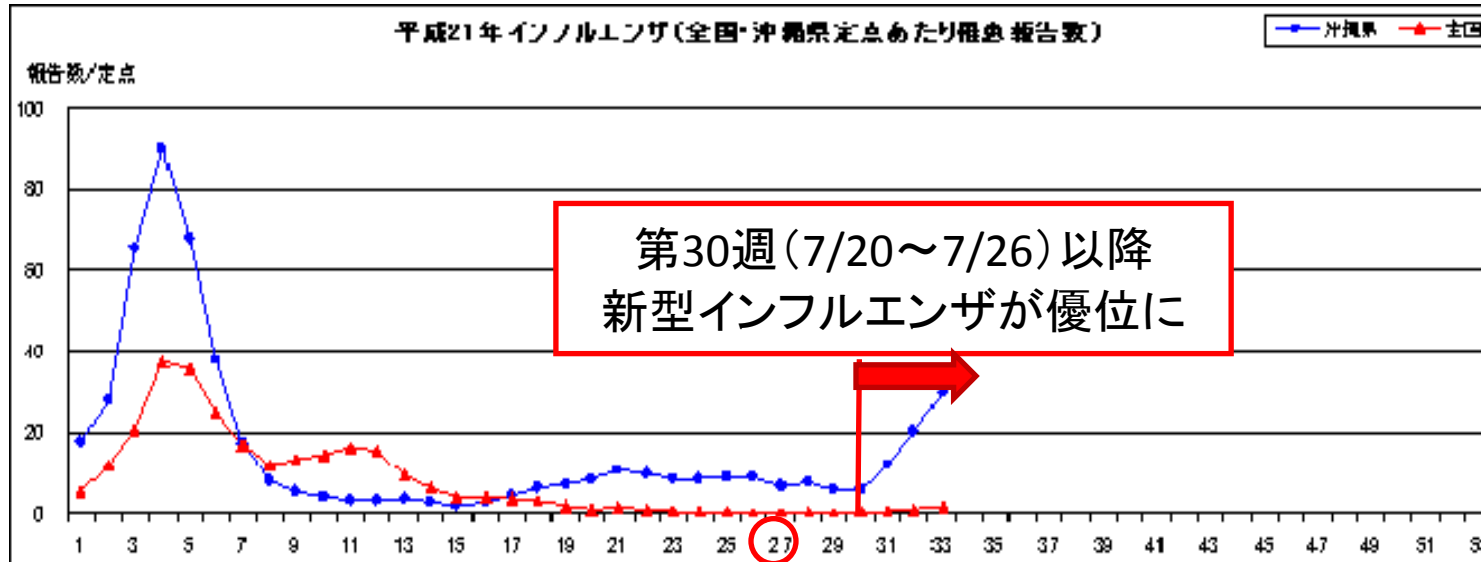
沖縄県(左図、n=124)と全国(右図、n=4,689)との比較

(厚労省新型インフルエンザ対策室把握分、7月24日6時現在)

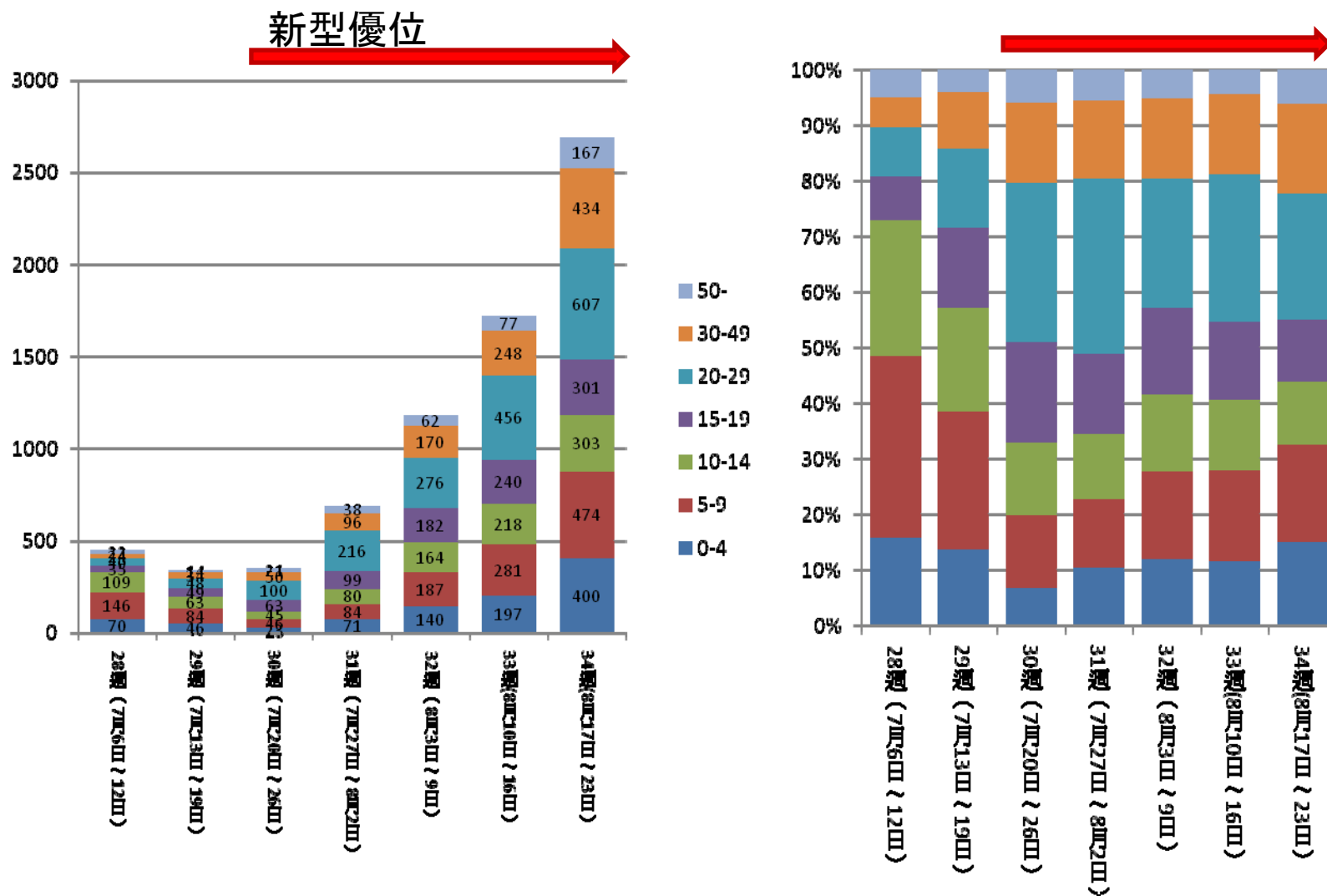


インフルエンザ定点あたり報告数

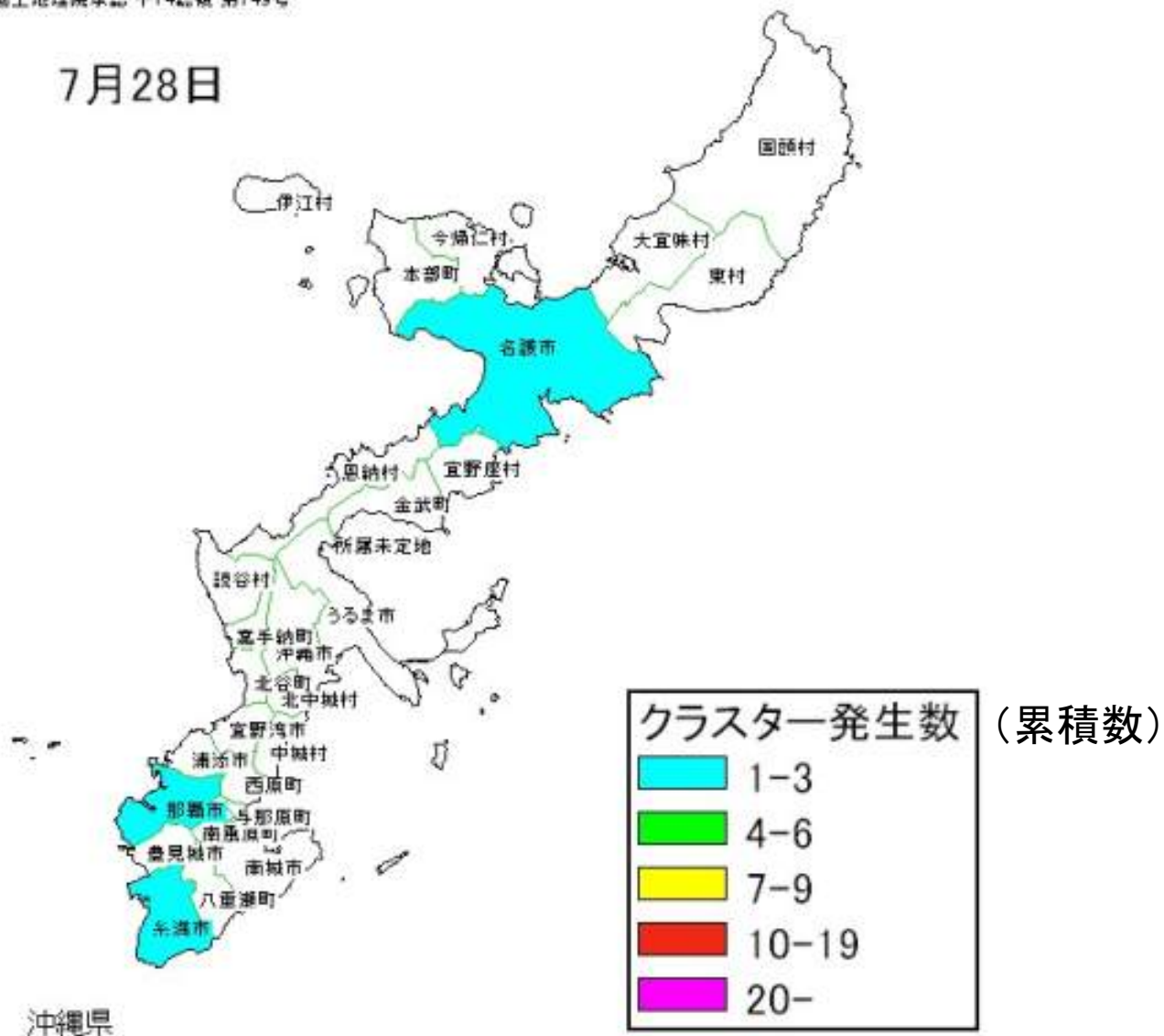
2009年第1～33週 沖縄県感染症情報センター <http://www.idsc-okinawa.jp/> より



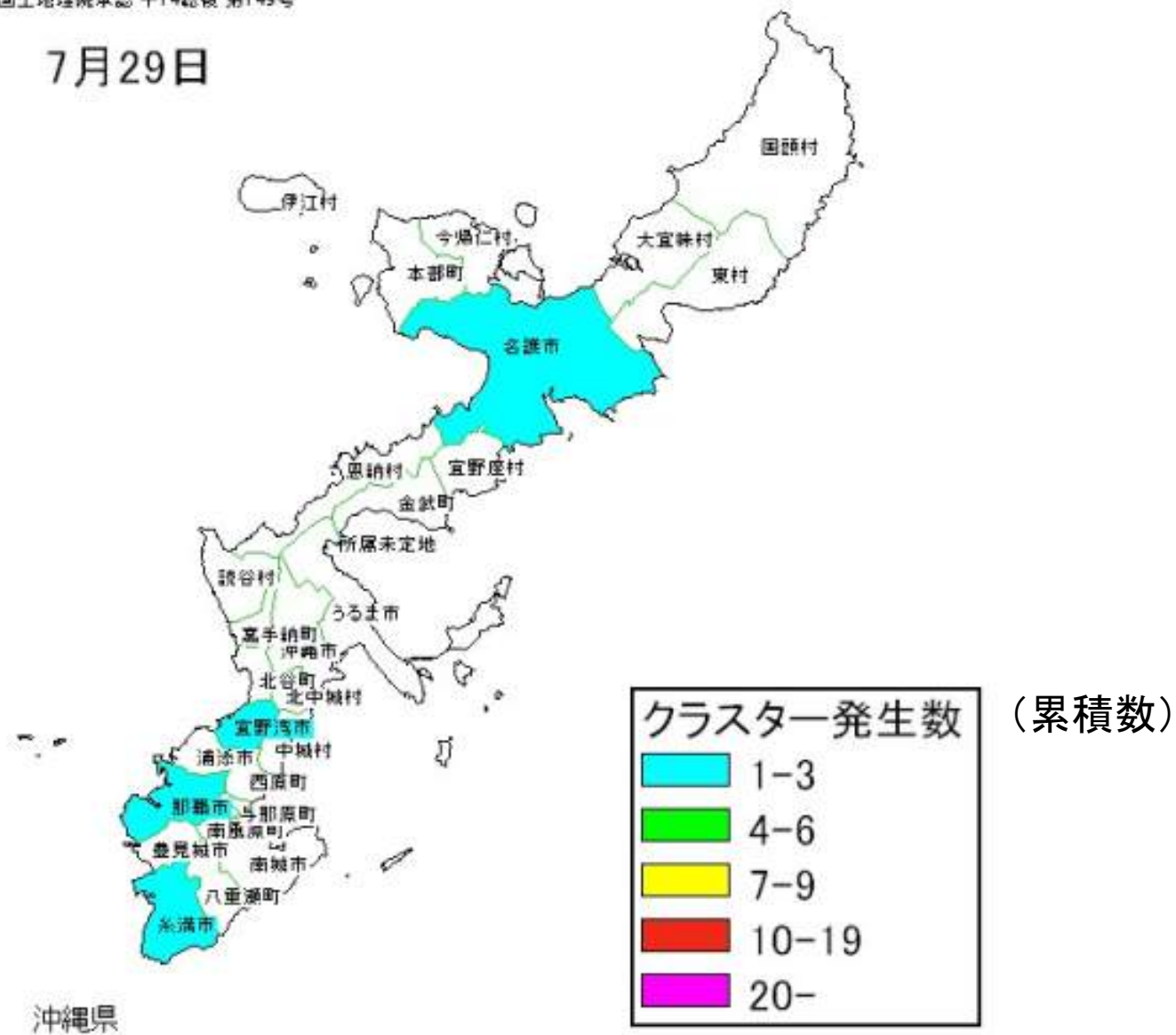
沖縄県インフルエンザ年齢別診断週別定点報告数とその割合(2009年第28~34週、n=7,400)



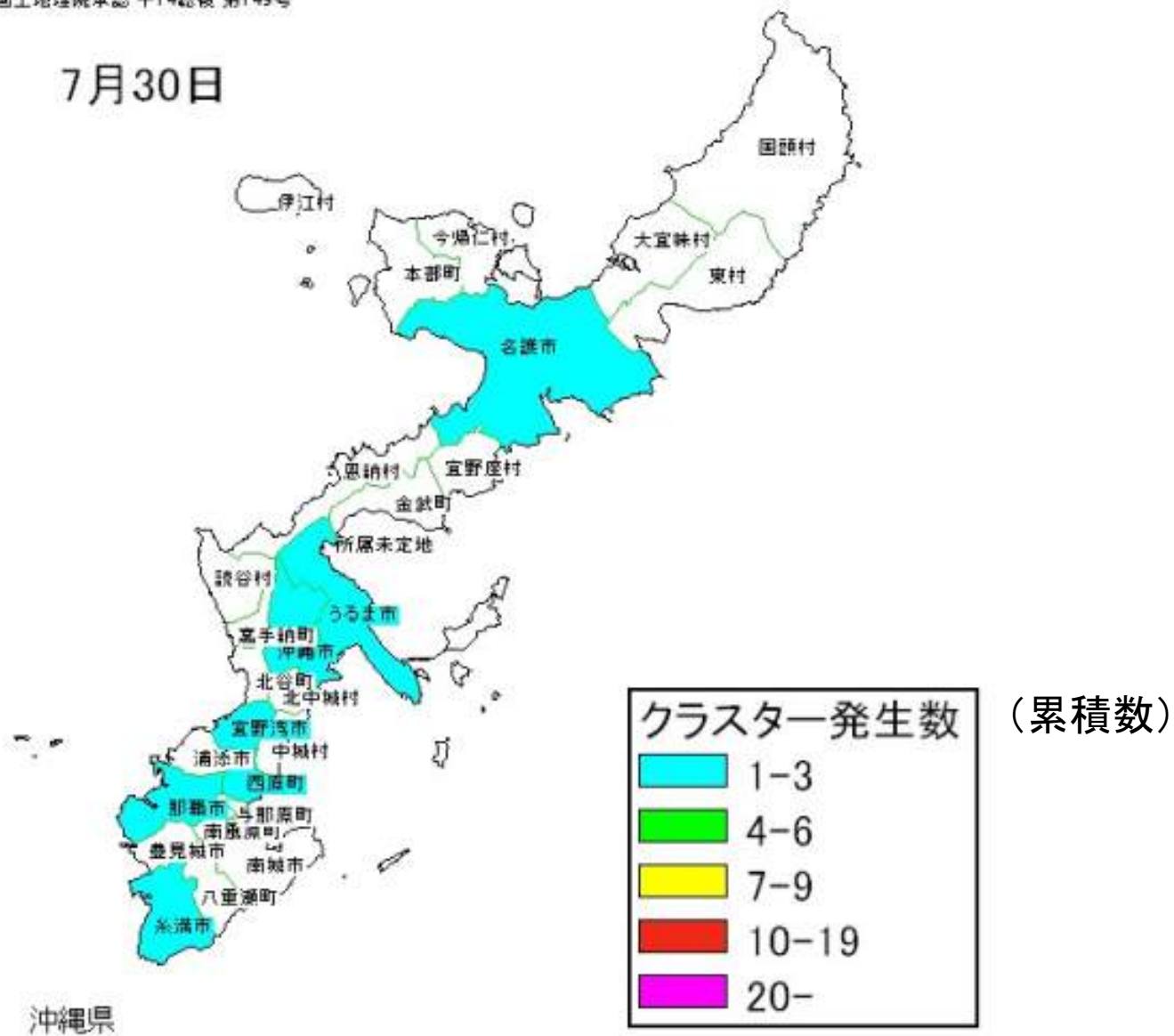
7月28日



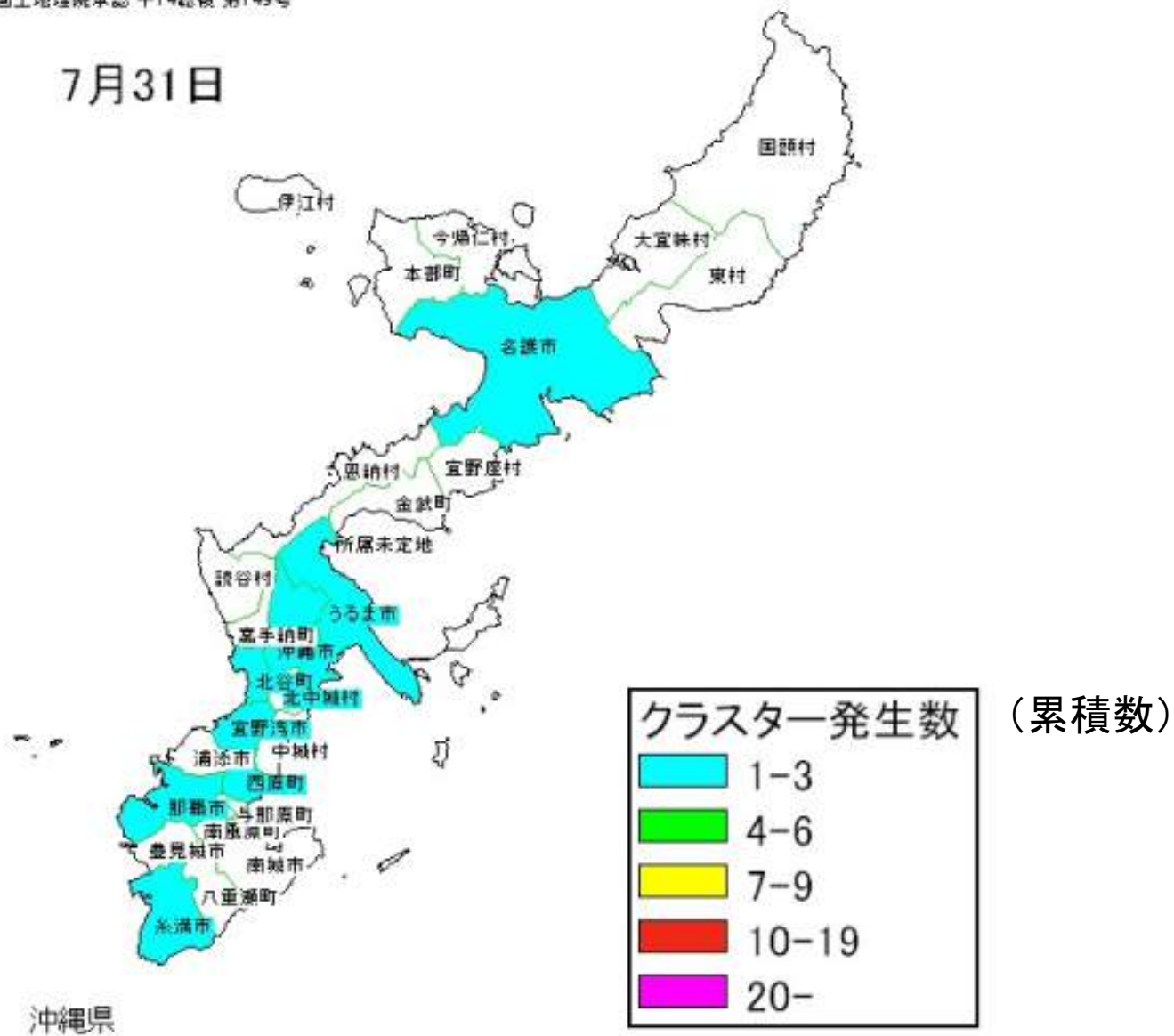
7月29日



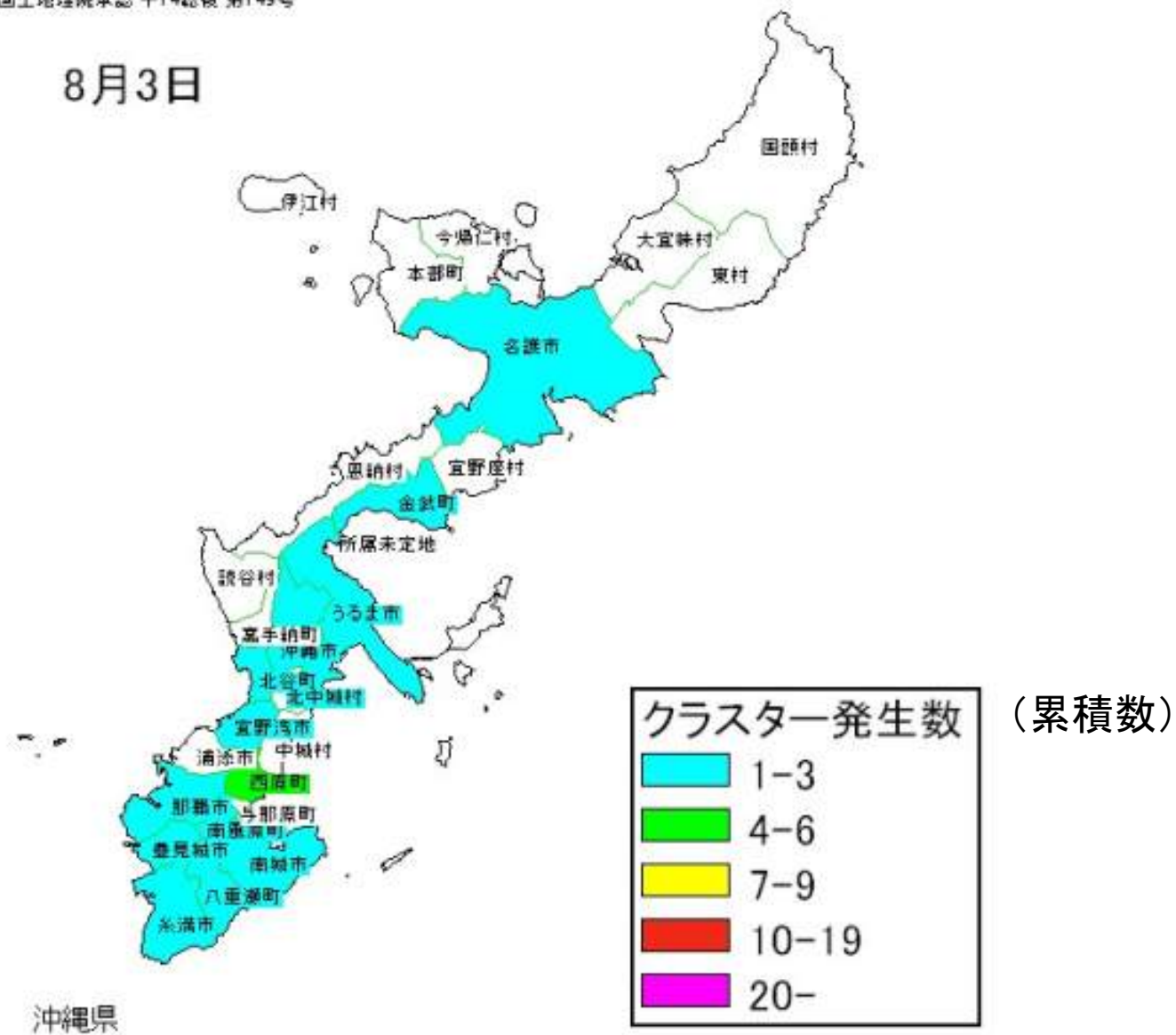
7月30日



7月31日

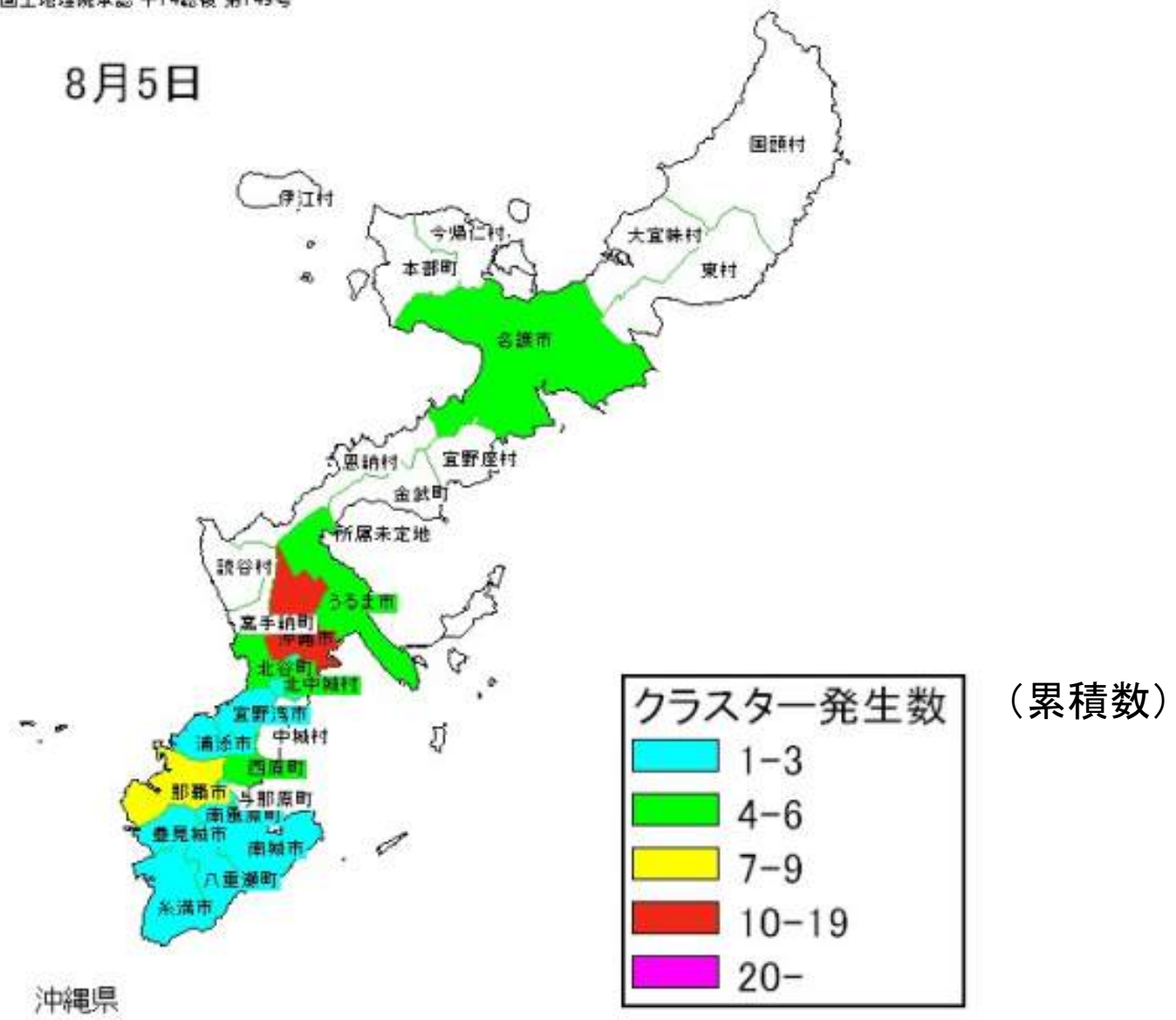


8月3日

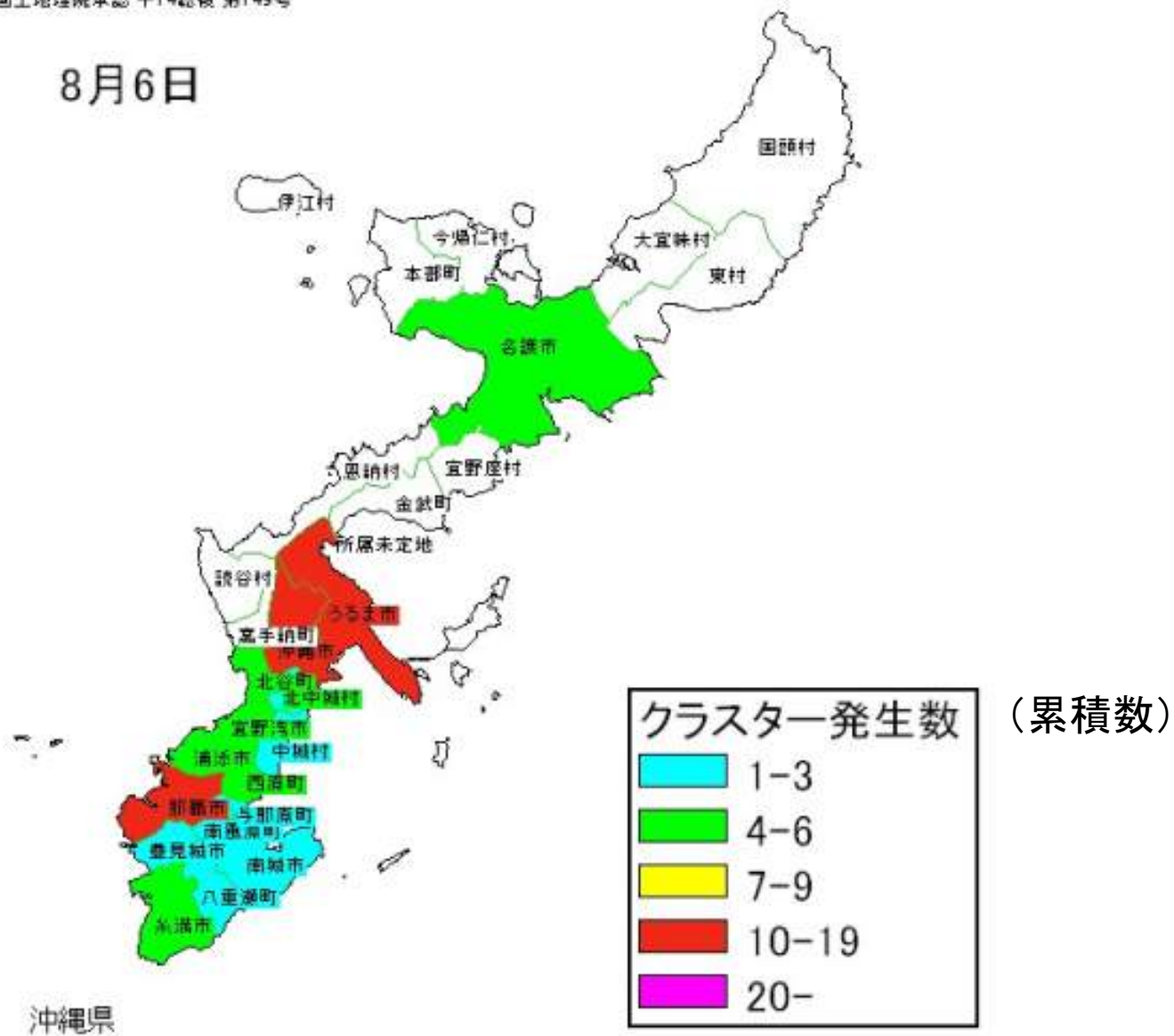


沖縄県

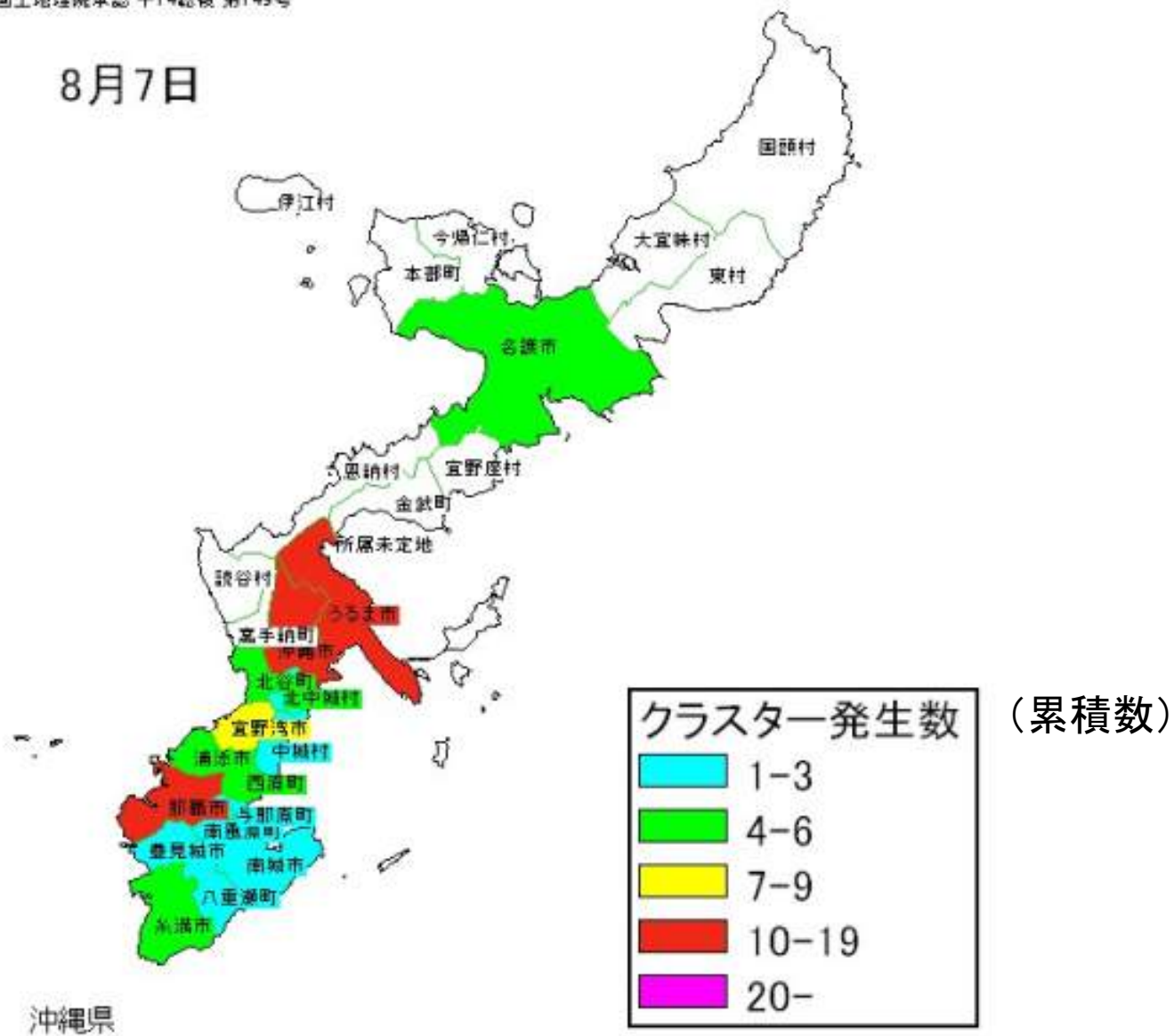
8月5日



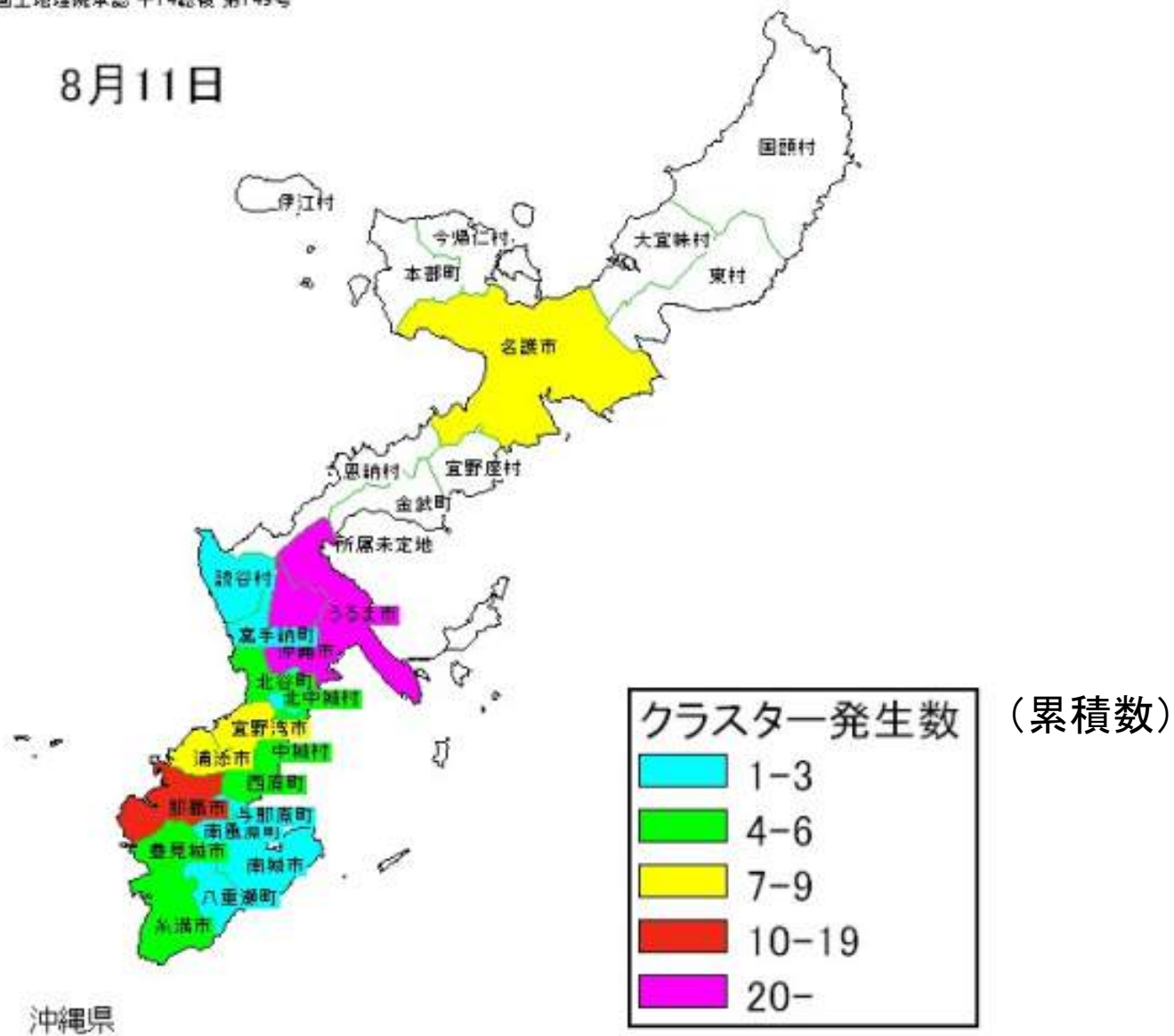
8月6日



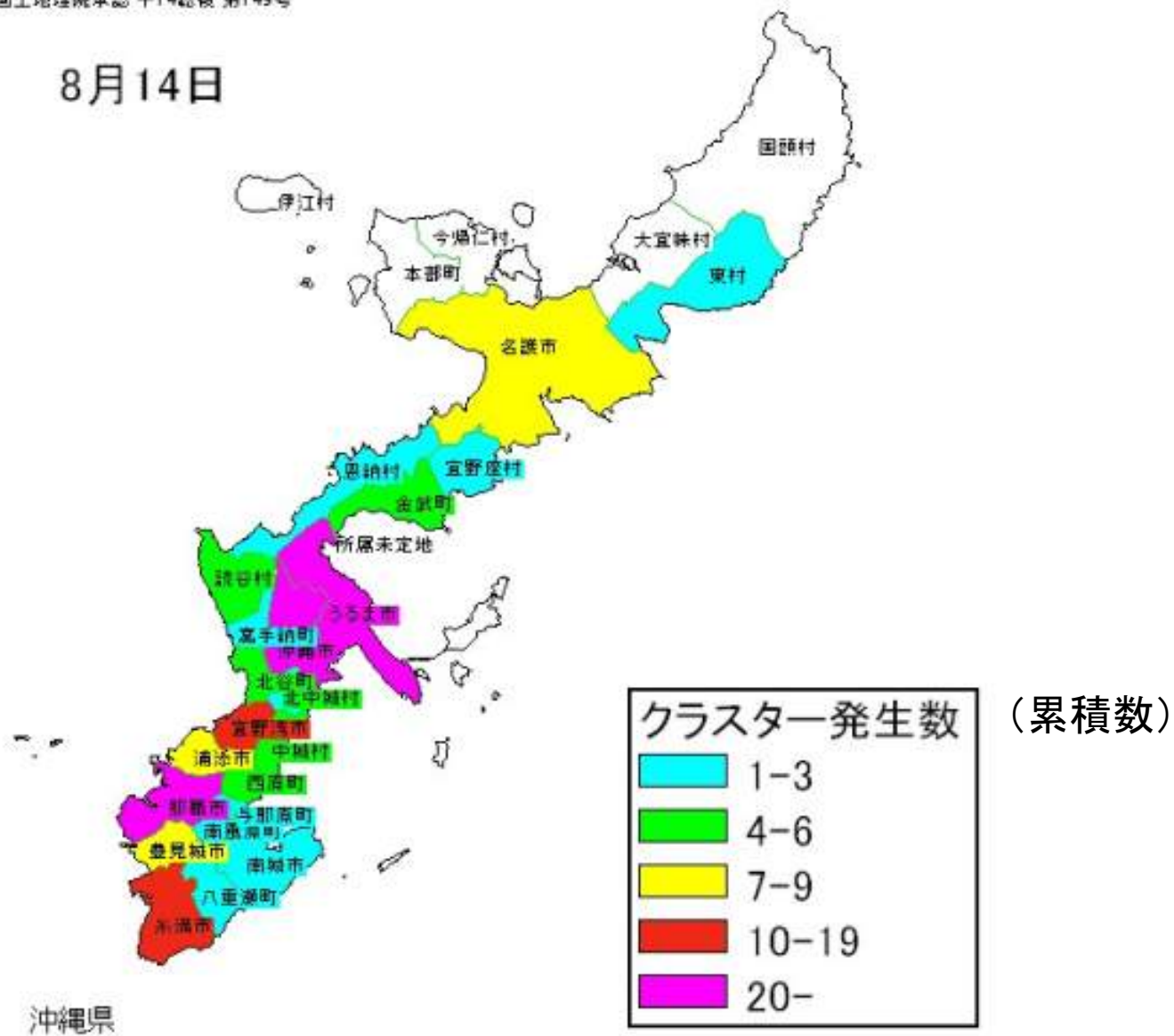
8月7日



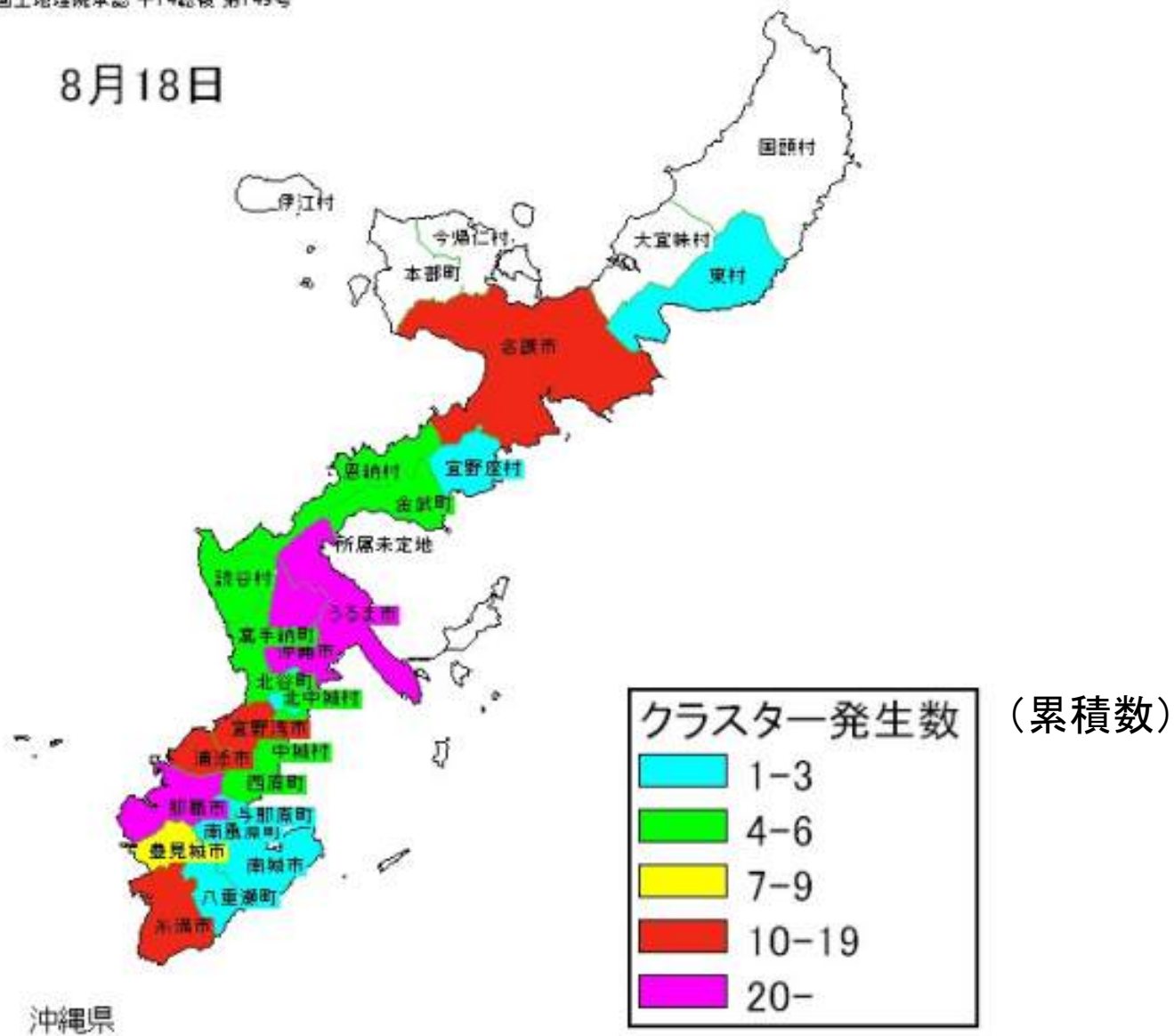
8月11日



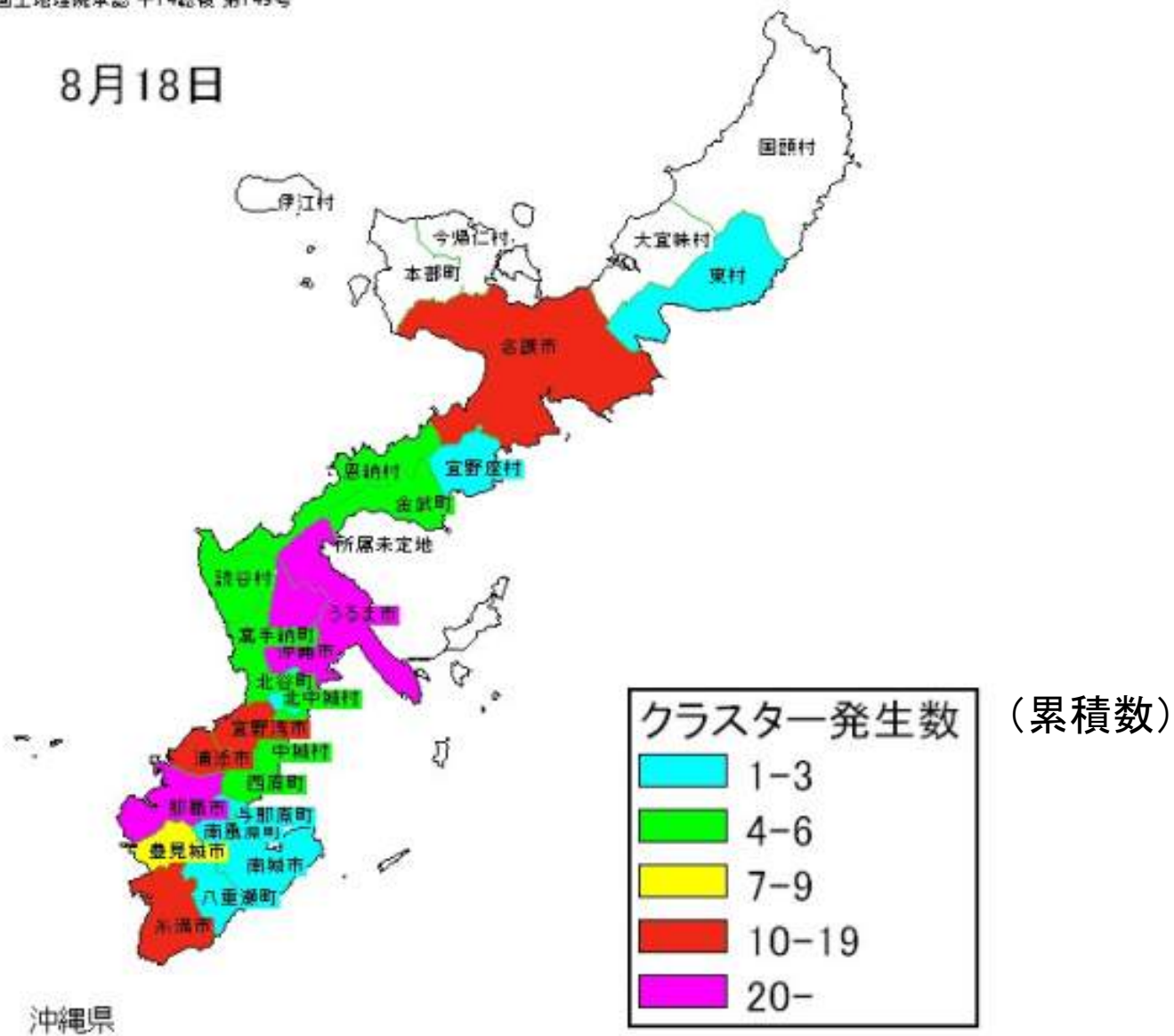
8月14日



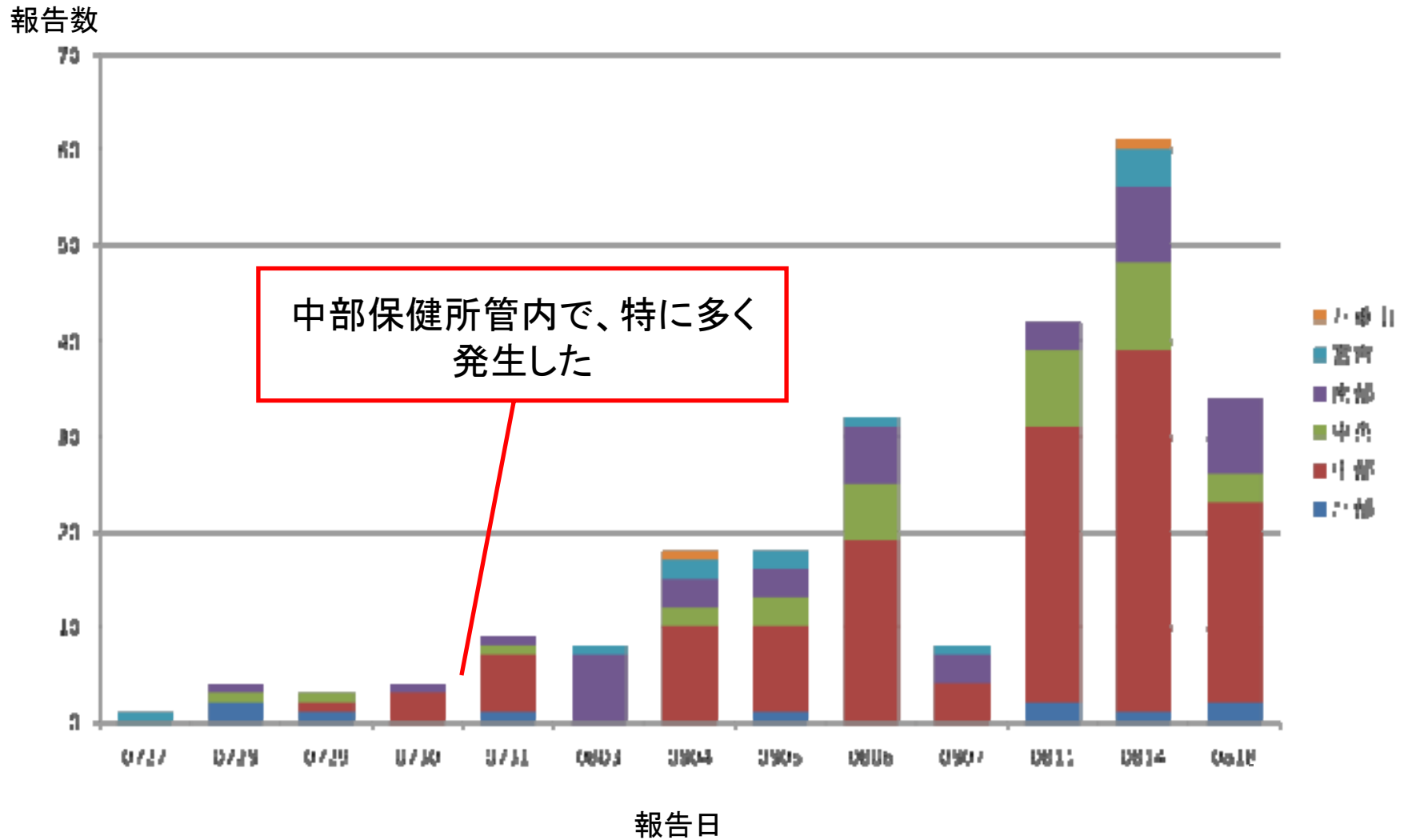
8月18日



8月18日

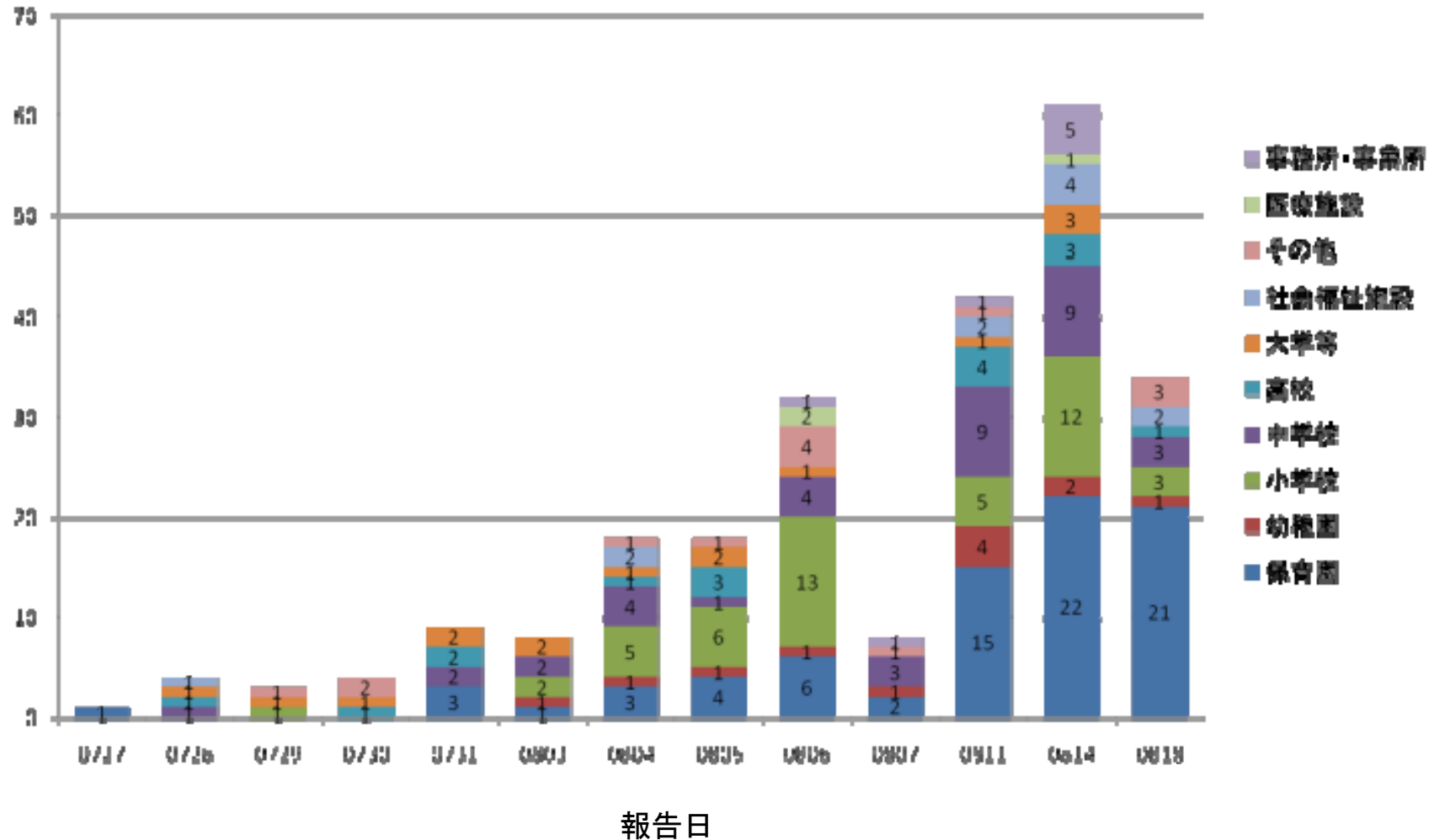


管轄保健所別クラスター発生報告数 (7月27日～8月18日、n=242)

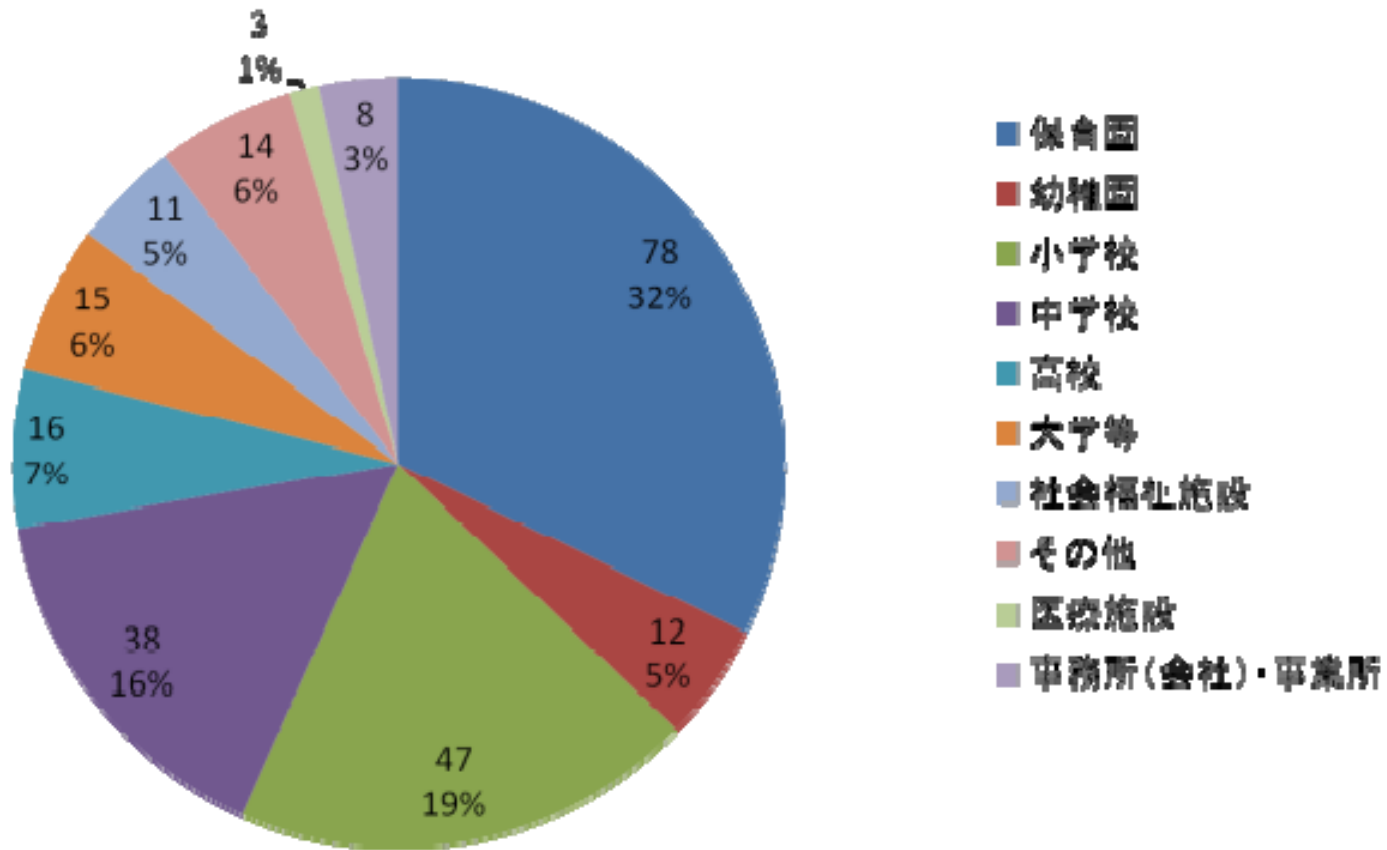


施設別報告日別クラスター発生報告数 (7月27日～8月18日、n=242)

報告数



施設別報告日別クラスター発生報告数割合 (7月27日～8月18日、n=242)



ただし、個々のクラスターについて、疫学情報の収集が困難になった状況下では、「共通の感染機会の場」ではなく、「共通の所属施設」として届けられたものも少なくない。

沖縄県内における疫学的状況のまとめ(1)

- 5月頃から、インフルエンザの定点からの報告数が増加傾向を示したが、第21週(5/18~5/24)の時点では、迅速診断キットでA型と診断されたもののうち、新型インフルエンザは検出されなかった。
- 6月29日(第27週)に県内第1例目が報告された(オーストラリアからの帰国者)。
- 7月23日(第30週)までの、全数把握期間においては、報告例における年齢の傾向は、全国と同様(年齢中央値16歳、10代が最も多い)。
- 7月24日以降、定点報告数での年齢群別割合は、20代以上が50%前後を占めている。

沖縄県内における疫学的状況のまとめ(2)

- 7月24日～8月18日までの、クラスターサーベイランスでは、3分の1が保育園における発生だった。
- クラスターの発生施設のうち、85%が、保育園から大学等の学校など、20代までの若年層が集団生活をおくる場所だった。
- ただし、同じクラスターと報告されても、「共通する感染機会の場」だったかについては、十分な調査がなされていない可能性がある。
- 小学校から高校までの多くの教育機関が夏季休業中であることを考えると、課外活動や、地域のイベントが感染機会になった可能性が考えられる。

医療機関に

沖縄タイムス

2009年 平成21年 8/24(月)

| 社説 | コラム | 特集・連載 | 海外沖縄 | 釣り | ワラビー | イベント | 写真 |

トップ 最新ニュース 政治 社会・暮らし スポーツ 経済 文化・芸能 地域 ひと

2009年08月11日 社会

インフル患者殺到 県内医療機関救急3~4時間待ち

県がインフルエンザ注意報を発令するなど再び、インフルエンザが県内で流行している。医療機関などによる外来者数やインフルエンザの患者が増加。9日には救急外来のある医療機関には、1日で約訪れ、対応に追われた。

南風原町にある県立南部医療センター・こども医療センターには、8、9の2日間で発熱などの症状を来患者329人が訪れた。土日で一般病院の休みと重なったこともあり待ち時間は3、4時間にもな。けの10日も午後4時ごろまで68人が診察に訪れた。

午後から仕事を休み、5カ月になる長男の診察に訪れた母親(27)は、「診察から薬の受け取りまでかかった。保育園でも流行しており心配したが、インフルエンザでまななかった」とホッとした様子。

同病院の上原幸祐事務部長は「救急外来で対応しているが、あまりにも多い。土日の対応改善を模る」と話す。

那覇市の赤十字病院でも9日までの1週間で95人の外来があったという。対策として待合室は、インザとみられる患者とそれ以外の席を分けるなど配慮している。担当者は「この時期、こんなに発生したかった」と驚く。

県医務課のまとめでは7月27日~8月2日の間、684人のインフルエンザ患者が発生。うち500人新型の可能性が高いという。同課の糸数公班長は「保育園でも広がっており、仕事にも影響する。学校とさらに拡大する可能性がある」と指摘。うがい・手洗いの徹底に加え、医療機関で受診する際は、マフ呼び掛けた。



沖縄の天気 事業案内 りゅうちゃんクラブ 琉球新報社から

ホーム 過去記事 写真&動画 特集一覧 社説 コラム

電子版 社会 スポーツ 政治 経済 地域 芸能・文化 教育 エンタ

インフルエンザ

RSS 2.0

新型インフル、救急病院バンク寸前 外来と電話相談殺到

2009年8月22日

新型インフルエンザの流行で、県立病院など救急病院がバンク寸前に達している。流行が著しい那覇、南部地域は特に深刻で、診療所が休診となる土日は救急外来患者と電話相談が殺到し、南風原町の県立南部医療センター・こども医療センター(大久保和明院長)では16日、救急で通常の倍以上の約220人が来院した。うち新型インフルエンザ疑いが約100人。電話相談は96件に上った。大久保院長は「患者が300人を超えると職員が疲労困ぱいし診察できなくなる。重症でなければ休日、夜間に救急病院に行くのではなく、早めに診療所を受診してほしい」と県民に呼び掛けている。

県内の定点当たりの患者数は29・60人で全国一。中でも南部保健所は42・44人、中央保健所(那覇市、浦添市)は40・24人で警報レベルを超えている。

医療センターの救急患者数は2008年度の1日平均約100人の倍以上の患者が訪れている。さらに電話相談も通常の1日平均15件から大幅に増加して追い打ちをかけ、職員総出で救急応援に当たっているが、手が回らなくなりつつある。

同院は診療所の休日開業など地域の開業医の協力も求めている。南部地区医師会(名嘉勝男会長)は来週、感染症危機管理対策委員会を開き、具体的な協力体制を協議する予定。

このような状況を受け、県看護協会(奥平登美子会長)はOBの看護師、保健師を中心に特に患者が殺到している県立病院、那覇市立病院の電話相談応援を実施することを決めた。月~土曜日の午後4~10時、各病院に電話当番を1人派遣し、現段階で32人がボランティアとして参加する予定だ。奥平会長は「わたしたちも現場の大変さは十分理解できる。大流行している今、わたしたちにできることは何でも協力しこの状況を乗り越えたい」と話した。

(玉城江梨子)

今後の対応についての課題

沖縄県だけではなく、全国の自治体の課題といえる。

➤ 急増する患者への対応

- 平日の日中、夜間の救急体制
- 週末の医療体制
- 重症患者の受け入れ態勢

インフルエンザ以外の重症患者＋重症インフルエンザの患者

➤ 教育機関への対応(学校との連携)

- 有効な学級閉鎖、学校閉鎖のありかたの検討
- 衛生教育として手指衛生、咳エチケット等を伝達
- 生徒への感染伝播防止につながる行動の助言：インフルエンザ様症状を発症した生徒の自宅待機遵守の指示

➤ 一般の人々への有効なメッセージの発信

- 症状がある者への助言、濃厚接触者の健康観察の指示、一般への手指衛生、感染伝播防止の行動などのメッセージの伝達

謝辞

調査にあたっては、各機関の関係者の方々に
多大な協力を頂きました。心より感謝いたします。

沖縄県庁福祉保健部医務課

沖縄県衛生研究所

中央保健所・中部福祉保健所・南部福祉保健所

那覇市立病院・県立中部病院・県立南部医療センター